IISEE Newsletter

2014 年 9 月 30 日

第 113 号

独立行政法人建築研究所国際地震工学センター

〒 305-0802 茨城県つくば市立原1 TEL 029-879-0678 FAX 029-864-6777

今月の話題

- 20 人の研修生が1年間の第54回研修コースを修了
- 国土交通大臣表敬訪問
- 学位記授与式 –政策研究大学院大学–
- 第2回ヨーロッパ地震・地震工学会議（2ECEES）
- 日・モンゴル耐震・高層建築技術セミナー
- 研修生代表答辞

研修 データベース

IISEENET（地震防災技術情報ネット）

IISEE-UNESCO レクチャーノート

Eラーニング

シノプシス・データベース（修士論文概要）

Bulletin データベース

20人の研修生が1年間の第54回研修コースを修了

国際地震工学センター 管理室長 飯場 自子

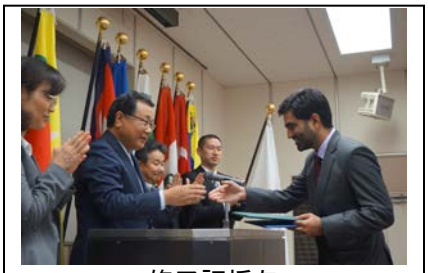
2013—2014年の地震学、地震工学、津波防災の研修コースの閉講式が、9月11日（木）（11時～11時45分）に建築研究所講堂において挙行されました。

閉講式

1960年に東京大学で開始された研修は、関係省庁の話し合いの結果、1962年から建築研究所が引き継ぎ実施しています。

坂本建築研究所理事長

式典には、研修生を含めた約45名の関係者の皆様が列席されました。閉講式は、JICA と建築研究所の合同式典になりますので、JICA 筑波インターナショナルセンターの木邨所長と建築研究所 坂本理事長の祝辞で、式典は開始されました。お二人の挨拶に続き、来賓の政策研究大学院大学の安藤教授からご祝辞をいただきました。政研大は、修士プログラムの共同実施者になります。



修了証授与

祝辞に引き続き、研修修了証と科目履修証が研修生に授与されました。その後、ベストリサーチ賞の授与が行われました。ベストリサーチ賞は、政研大と国際地震工学センターが、学術的にレベルの高い優れた修士論文を執筆した研修生3人に対し、その栄誉を祝福するために授与しています。今年は、ベネズエラの Ms. Raquel Noemi Vasquez Stanescu（ラクエル）、エルサルバドルの Ms. Pamela Urrutia Barrios（パメラ）、ペルーの Mr. Jorge Manuel Morales Tovar（ホルヘ）の3人が受賞しました。

本年、IISEE は、国際地震工学センター長賞を創設しました。同賞は、研修プログラムにおいて優秀な成績を収めた者に贈られます。インドネシアの Ms. Yanuarsih

地震データベース

2011 年 3 月 11 日東北地方太平洋沖地震

地震情報

宇津カタログ（世界の地震被害）

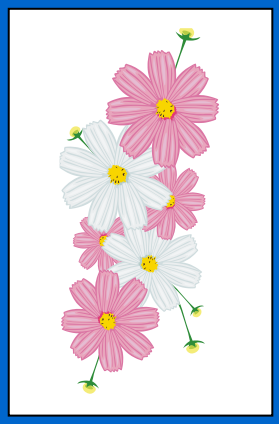
地震カタログ（世界の大地震の震源メカニズム、余震分布等）

論文募集

IISEE Bulletinは、現在地震学、地震工学、津波に関する論文を募集しております。開発途上国に関するものを対象としていますが、それに限らず募集しています。

送って頂いた未発表の論文は、編集委員会と専門家による査読を行います。投稿料は無料です。

是非チャレンジして下さい。



Tunggal Putri（アリ）、パキスタンの Mr. Shafiq Ur Rehman（シャフィック）、バングラディシュの Mr. Md. Shamsul Islam（シャムス）の3人の研修生が受賞しました。

最後に、バングラディシュの Mr. Md. Shamsul Islam（シャムス）が研修生を代表し答辞を述べ式典は終了しました。（P4 をご覧下さい。）

国土交通大臣表敬訪問

国際地震工学センター　管理室長　飯場　自子

太田大臣と研修生

平成26年9月8日、2013年—2014年研修生は、国土交通省の大臣室に、太田昭宏国土交通大臣を表敬訪問しました。

太田大臣は、京都大学で土木工学を学ばれ、耐震工学に大変造詣が深く、ご自身の大学・大学院時代の研究テーマから話を始められ、日本の地震災害対策への努力について紹介されました。大臣は、研修生がそれぞれの国の防災分野で活躍して欲しいと研修生を激励されました。

インドネシアのMs. Yanuarsih Tunggal Putri（アリ）が、研修生を代表して大臣に御礼の言葉を述べました。また、アルジェリアのMr. Faouzi Gherboudj（ファウジ）、トルコのMr. Ergun Binbir（エルグン）、ペルーのMr. Jorge Manuel Morales（ホルヘ）が、それぞれの研究を紹介しました。

研修生代表挨拶

太田大臣のご厚意により、研修生は大臣室で約30分過ごし、最後は1人ずつ握手をして退室しました。

学位記授与式　-政策研究大学院大学-

国際地震工学センター　管理室長　飯場　自子

政策研究大学院大学との共同事業により、IISEE研修生は、1年間の研修を修了すると修士（防災政策）号を取得することができます。

修士号学位記授与

2013年—2014年研修コースの研修生も、政策研究大学院大学(GRIPS)の評価基準と評定に合格することができました。9月12日に、GRIPSの想海樓ホールで学位記授与式が挙行されました。博士課程と修士課程の修了生182名が学位記を授与しました。IISEEの研修生を含めた防災政策プログラムの卒業生は32名でした。最初にアルジェリアの

楽しむのは今です。

学位授与式

Mr. Faouzi Gherboudj(ファウジ)が学位記を受取りその後全員が続きました。

式典の後は、卒業生と関係者はレセプションに参加しました。研修生全員が修士号の学位記を持って幸せそうでした。まさに研修生にとっては幸せなそして最後の日となりました。最後に、IISEEとしてお世話になった皆様に心から感謝申し上げます。どうもありがとうございます。

第2回ヨーロッパ地震・地震工学会議（2ECEES）
－トルコ・イスタンブール －

国際地震工学センター　犬飼　瑞郎、　鹿嶋　俊英、　谷　昌典

イスタンブールの街並み

2014年8月24日～29日の6日間にわたりトルコ・イスタンブールにて開催された第2回ヨーロッパ地震・地震工学会議に出席しました。国際地震工学センターからは、犬飼上席研究員、鹿嶋主任研究員、谷研究員の3名が参加しました。会議では76か国から2089件ものアブストラクト投稿があり、犬飼はポスター1件、鹿嶋はポスター2件、谷は口頭発表1件をそれぞれ行いました。会議中には18名の元研修生（アルバニア、アルジェリア5名、アルメニア、コスタリカ、イラン、マケドニア3名、ルーマニア、トルコ5名）と会い、それぞれの近況を確認することができました。

日・モンゴル耐震・高層建築技術セミナー

国際地震工学センター　主任研究員　鹿嶋　俊英

構造研究グループの田尻主任研究員とともに、9月4日と5日にモンゴル国ウランバートルで開催された「日・モンゴル耐震・高層建築技術セミナー」に出席してきました。このセミナーは、日本の国土交通大臣とモンゴルの建設都市開発大臣との間で交わされた建築技術協力に関する覚書に基づき開催されたものです。セミナーでは、日本側から、日本の建築制度や耐震基準、高層建物の設計や建設技術、免震制振建物、非構造部材の耐震技術、高層建物の防火対策、エレベータの安全対策など紹介がありました。またモンゴル側からは、モンゴルの建築の動向や耐震設計の現状について、モンゴル科学技術大学のGanzorig教授から紹介がありました。Ganzorig教授はIISEEの元研修生です。セミナーは活気にあふれるもので大成功に終わりました。これを機に、日本とモンゴルの協力関係が強化され、モンゴルの建築の耐震安全性の向上が図られることを祈っています。

会議場

連絡先

IISEE ニュースレターは、IISEEと卒業生の架け橋を目指しています。

ニュースレターへの報告や記事をお待ちしております。皆様の自国でのご活躍をお知らせ下さい。

また、皆様の同僚やお友達もこのメーリングリストに登録するようにお誘い下さい。

iiseenews@kenken.go.jp
http://iisee.kenken.go.jp

バックナンバーは下記をご覧下さい。

http://iisee.kenken.go.jp/nldb/

研修生代表答辞

バングラデシュ Mr. Md. Shamsul Islam from Bangladesh（シャムス）

建築研究所の坂本理事長、国際地震工学センターの横井センター長、前国際工学センター長でもある政策研究大学院大学の安藤教授、そして JICA 筑波インターナショナルセンターの木邨所長をはじめとするご列席の皆様、お早うございます。

このような式で、地震学、地震工学、そして津波防災コースの友人である研修生を代表してご挨拶できることを光栄に思います。

「終わり良ければ全て良し」という格言から始めたいと思います。私達は、1年間の中身の濃い研修コースを良い形で終了しようとしています。

この研修をとおして私達が得た知識や経験には二つの側面があると思います。一つは学問について、もう一つは日本の人々やその文化についてです。

私達が各自の分野において最先端の日本の知識や技術を学び知識を深めたことは言うまでもありません。しかし、それと同じく、あるいはそれ以上に感銘を受けたのは、日本の人々の忍耐力、決断力、仕事の隅々にわたる完璧さ、親切さ、協力、笑顔、そして丁寧な会釈であると思います。

シャムス氏（閉講式にて）

今では、私達はなぜ日本の製品が性能や効率の面において世界で敵なしであるのか分かっています。たとえアフリカの辺境の村に住む人や、アフガニスタンの山々の中に暮らす人であっても、その製品が日本で作られたと知れば、躊躇いもせずに飛びつきます。「Made in Japan」のラベルが貼られてさえいれば十分なのです。人々は、決して失望させられることはないと知っているから、完全に信頼してその製品を買うのです。

日本の高品質な製品は、それを作っている人々についても私達に語りかけます。製品が高く評価される技量によるものなのであれば、それを考案した人々は、立派な資質と人柄を持ち合わせた極めて優れた人々なのだと。そして、今、私達はそれを十分に理解しています。

友人である研修生の皆様に伝えたいのは、進む道を示された今、私達はそこに向かって進み続けなければならないということです。走れないのであれば歩いて、歩けないのであれば這ってでも。いずれにしても前進しなければなりません。どうか、東日本大地震、新潟中越地震、そして神戸地震の被害にあった地域への研修旅行から学んだ事や経験を大事にしてください。私達は、日本の人々が、暗闇から光に向かい、互いを助け、過去から学び、そして「決してあきらめずに進み続ける」ということをモットーにして発展してきたことを知りました。

皆様が無事に帰国されるよう願っています。今後も連絡を取り合い、私達の人生の向上のため、互いに助け合いましょう。

最後に、JICA、建築研究所、国際地震工学センター、政策研究大学院大学、そしてこの研修コースに尽力いただいたすべての方々に、感謝します。

ご清聴ありがとうございました。